

地域共創タウンミーティング in 観音寺市 実施報告書

1 開催概要

日時：令和8年2月9日（月）10時30分～12時

場所：観音寺市役所4階402会議室

目的：地域住民の方々との意見交換を通じて、地域における課題を知り、大学・地域共創プラットフォーム香川の今後の取り組みに生かすことを目的として実施する。

参加者：観音寺市企業・団体7名、観音寺市職員4名、香川県職員2名、県内大学等教職員6名

2 タウンミーティング内容

観音寺市における「中小企業の人材確保について」

(1) 若者のUターンや地元定着について

- ・新卒採用に限定すると都市部との比較により不利となるため、一定期間就業経験を積んだ人材を対象としたアプローチが有効と考えられる。
- ・直近5年ほどはUターン者よりも、J・Iターンによる就業が増加しており、その背景には福利厚生充実がある。
- ・就業と地域での生活を一体的に捉える取組は有効であると考えられる。例えば、子どもの送迎など日常生活の要素もインターンシップに組み込む等、企業での業務体験に加えて地域での生活を体験できる機会の創出を検討している。
- ・観音寺市の企業が連携し、2週間程度のインターンシップを各企業が2日ずつ分担して実施することで、企業の負担軽減とともに、学生に対して市内の多様な企業を幅広く認知してもらう機会の創出につながると考えられる。
- ・若年期において社会人と接する機会は多くないが、観音寺市の取組であるインターンシップでは、地域企業の人材と接する機会が得られる点で有効な取組であると感じた。一方で、高校の授業の環境として実施される「点」での取組にとどまっているため、今後は高校生活全体の中でどのように継続的に関わりを持たせていくかという「面」での展開が課題である。
- ・香川大学においては、東京圏の大学と連携した取組を実施しており、香川で生活するという経験を、生活環境（買い物場所や日常生活の利便性等）を具体的に理解することは重要であると感じる。今後は、このような取組を観音寺市や関係者と連携しながら推進していきたい。

(2) 若者の地元就職、Uターン促進のための産官学連携について

- ・弊社では独身寮を設け、家賃については月額5千円の自己負担とし、5万円は会社が補助している。経営資源を投入して、人材確保に努めているが、福利厚生に対する官公庁からの支援があればありがたい。
- ・県や市の施策は単年度で実施されることが多いが、単年度の施策だけでは、入社時点で施策が継続していない可能性があり、効果的なPRが難しい。そのため、3年から5年程度の中期的な視点で施策を実施いただけるとありがたい。
- ・運送会社としては、運転免許取得費用に対する補助があれば、人材確保の面で大きな支援となる。

- ・出前講座や地域と連携した課題解決型の授業は、もともと地域の課題に関心の高い層に偏る傾向があると考えられる。こうした状況を踏まえ、関心の低い層にも興味を持ってもらうためには、中学生・高校生の段階から教育課程の中に地域学習を組み込むことが重要だと考える。
- ・単に小・中・高等学校へのプログラム提供にとどまらず、地元定着や地域の魅力向上につながる講座が実施可能であることについて、より効果的に周知・発信していくことが望まれる。
- ・職場に限らず生活者として孤立しないよう、様々な人とのつながりを築く機会を創出し、地域がそのネットワーク形成を支援していくことが重要である。こうした取組を通じて、地域全体への愛着を醸成していくことが求められる。
- ・香川県においては理系技術者の不足が課題となっている。このため、小・中学生の段階から、学習内容が実際の職場でどのように活用されているかについて、企業や教育現場が連携して伝えていくことが重要である。
- ・さらに、今後、学生に企業の PR 動画を制作してもらう取組を検討しているため、企業 PR の専門家と連携しながら取り組んでいきたい。